

魅力発見 たきがわ 滝川ダム



男鹿三山のひとつとされる毛無山を水源とする滝川は、その名のとおり急流で、降雨時には一気に増水し、農地や農業用施設に被害を与えることが度々あった。

一方で、晴天が少しでも続ければ渇水となり干ばつ被害をもたらしていた。このため、滝川の上流にダムを設置し農業用水の安定供給により、農業経営の安定向上を図っている。

(地図①)

いち め がた 一ノ目潟



一ノ目潟は、北浦地区の農業用水・飲料水の水源となっており、野村川から一ノ目潟に通じる水路トンネルは、江戸時代の内田氏・明治時代の田沼氏により掘削された。(現在、改修工事中。) 一ノ目潟は、近くの二ノ目潟、三ノ目潟と共に「目潟火山群」とされ、マグマの水蒸気爆発によって造られた珍しいマール湖で、2006年の調査により湖底から「年縞(ねんこう)」の存在が確認され、翌年には国の天然記念物に指定されている。

※「年縞」について詳しくは男鹿市ジオパーク学習センター(地図③)へ
※上水道の水源のため、一ノ目潟湖畔と水路トンネルには立ち入りが制限されている。

魅力発見 たき かしら 滝の頭



▲1日におよそ2万5000トンもの水が湧き出ている

▲円形分水工は38の穴でそれぞれの地区に水を分けている
※滝の頭は、滝の頭水源浄水場の奥にあり、見学の際は浄水場管理棟で記帳が必要です

寒風山一帯に降り注いだ雨水は、長い年月を経て今木神社の周辺から大量に湧出し、「滝の頭」と呼ばれる沼へ流れ込んでいる。

沼の下流には“円形分水工”が設置され(浄水場の奥にあります)、五里合、渡部地区の農業用水や男鹿市内の飲料水として分配され、男鹿市の大手な水資源となっている。近年、この清水を使ったクレソン栽培も行われている。(地図③)

魅力発見 なまはげ大橋から見る あんぜんじ たなだ 安全寺の棚田



▲なまはげ大橋から見える安全寺の美田(駐車場はありません)

男鹿半島の先端に向かう道路「なまはげライン」で一番長い「なまはげ大橋」上は、森(山)・里(田)・海が一望できる絶景ポイントである。そこから望める「安全寺の棚田」は男鹿三山を背景に相川湾まで続いている、緩やかな曲線を描く棚田の風景が鮮やかである。

地元住民で組織する「安全寺里山保全会」では、平成26年度から「里山の美田オーナー」の募集を始め、農作業体験や交流会を通じて田んぼの保全に取り組んでいる。

(地図④)

魅力発見 ぼうちょうすいもん 防潮水門



▲八郎潟湖周辺で生活する人たちにとって欠かせない防潮水門

八郎潟は日本海とつながった汽水湖であった。干拓後は船越水道に設けられた防潮水門で海水は遮られ、残った八郎潟調整池は淡水化されている。

全長370m(可動部350m)の水門は、海水の浸入を防ぐためだけではなく、調整池から海への放流量を調節し、八郎潟調整池の水位を一定に保つ役目も果たしている。

(地図⑤)

秋田県農業の神様 いしかわりきのすけ 石川理紀之助 (1845~1915)



卓越した農業知識を請われ県の農業行政に従事し、米質改善指導、種子交換会(現在の種苗交換会の前身)創設、歴観農話連の結成など地域に即した農業指導に努めた。

辞職後、山田村に帰村し、農業の効率的経営を奨め、5年間で村の借金を完済した。農村の土地や土壤などの総合調査とも言える「適産調」も手がけ、この調査をもとに全国各地の農村の指導にあたり実績を挙げた。

※詳しくは石川理紀之助翁資料館(入館は有料。)(地図⑤)へ

魅力発見 なんぶ はいすい きじょう ほくぶ はいすい きじょう 南部排水機場・北部排水機場

海拔0m以下の大潟村では3カ所で排水を行っており、このうち南部と北部排水機場では、村内の中央幹線排水路から水を汲み上げ八郎潟調整池に排出しているほか、南部排水機場は西部承水路の水位調整も行っている。



▲北部排水機場内(地図⑦)



▲景色も綺麗な南部排水機場(地図⑥)
る。南部排水機場の展望室
(平日限り見学可、ただし要予約
TEL0185-46-2661)からは、広大な干拓地を眺めることができる。

※詳しくは大潟村干拓博物館
(入館は有料。)(地図④)へ

秋田の「開拓の父」 わたなべ おのまつ 渡部斧松 (1793~1856)



寒風山の山裾は、水の確保が難しい原野であった。足軽の子に生まれた渡部斧松は、「滝の頭湧水」に着目し、285mにも及ぶ水路トンネルをわずか半年で開通させたが、砂質の土質で何度も崩れ落ち犠牲も多かった。

水を確保した後には開墾を進め、「渡部村」を開村し、飢饉を乗り越え、村法の制定など画期的な経営を進め、村は著しい発展を遂げた。

斧松は、その功績が秋田藩から認められ、藩の開発を取り締まる役に登用され、多くの新田開発を行った。